

枝にピンクの花を

秋田職能大 ジャンボ枝アメ飾り付け



枝アメを飾り付ける学生たち（職業能力短大）

大館アメッコ市（2月11、12日・おおまち八公通り）会場を彩るジャンボ枝アメの飾り付け作業が13日、大館市の秋田職能能力開発短大で行われた。学生や職員約60人が地元の伝統行事に理解を深め、計19本を完成させた。

枝アメはミズキの木に縁起札と黄や緑、ピンクの3色のアメ玉を結び付けたもの。1本に400個前後のアメ玉が飾られ、真冬に花が咲いたように見えることから、アメッコ市の名物となっている。

生産技術と住居環境面科の1年生26人、2年生15人をはじめ職員約20人が参加。枝先にアメ玉などを一つ一つも結び、約1時間かけて完成させた。

同市出身の菅原ひまりさん（2年）は「今年は積雪があつて、枝アメが映えると思う」と張り切った。県外出身の友人にアメッコ市を知ってもらう機会になったといい「枝アメを見て『かわいい』と喜んでもらったのうれしい」と話した。

アメッコ市は約430年前の1588（天正16）年に始まったとされ、「この日にアメを食べると風邪をひかない」という言い伝えが残る。事務局の市観光協会によると、枝アメは今月下旬までに50本以上製作する計画。大半がボランティアの協力で飾られる。